



校訓 「自立 協同 創造」
校是 「生きるとは 分かちあうこと」

養父市立養父中学校 学校だより
(令和7年7月4日) 第14号

学校教育目標「しなやかな強さを持ち 協働的・創造的に活動できる生徒の育成」

夏季休業日が近づいてきました

夏季休業日(7月19日～8月24日)が近づいてきました。多くの生徒は部活動のために登校しますが、昔に比べるとその時間は短くなっています。また、3年生はほぼ部活動を引退しますし、1・2年生の中にも部活動に所属していない生徒もいます。よって、夏季休業日は特にご家庭の教育力が問われる重要な期間と言えますので、以下の事柄を参考にいただき、それぞれでしっかりとご指導くださいますようお願いいたします。

1 夏休みを有意義に過ごすために、明確な目標を持たせる

○子どもたちが自らの生活を見つめ、有意義な夏休みとするために、目標を持たせ、具体的な計画のもとに過ごすように指導しましょう。

2 規則正しい生活のリズムのもとに一日を計画的に過ごさせる

○テレビ、ゲーム、インターネット、スマホ・携帯電話等の使用について、家庭内で「約束ごと」を決め、自己をコントロールする力をつけさせましょう。

○基礎学力の定着、自由研究、読書等に計画的に取り組ませましょう。

3 家庭や地域の人々との人間的なふれあいを深めさせる

○あいさつや手伝い等をすすめて、心豊かな生活ができるよう指導しましょう。

○地域での伝統行事等に積極的に参加して、地域の人々とのふれあいを深めるとともに、人々の温かさや優しさに触れさせましょう。

○さまざまな体験活動を通して、感動の心を育てるよう指導しましょう。

4 安全指導を徹底するとともに問題行動の防止につとめる

○交通ルールの遵守、触法行為の禁止、事故の未然防止並びに健全育成の推進につとめましょう。自転車乗車時のヘルメット着用を指導しましょう。危険箇所を周知し、交通事故や水の事故を防止しましょう。

○インターネットを使用する際の情報モラルや有害サイトの危険性について指導を徹底しましょう。

○外出するときは「どこへ」「だれと」「何をしに」「いつ帰る」を伝えさせましょう。



【養父市】親子ではぐくむ『5つの生活習慣』

1 早寝・早起きの習慣 2 規則正しい食事の習慣 3 あいさつの習慣 4 片付けの習慣 5 読書の習慣

【お知らせ】8月12日(火)～15日(金)は、教職員一斉の休暇取得を奨励しています。したがって、学校が留守になると考えられますので、かりに緊急の連絡がある場合は、養父市教育委員会こども学び課までお願いします。(午前8:30～午後5:15)

戦後80年目の沖縄戦慰霊の日（6月23日）に思う

私の祖父である岩浅五郎は昭和60年3月にこの世を去りました。大正3年生まれですから享年72歳でした。葬儀後間もなく、仏間に祖父の遺影が飾られ、我が家の仏間にはこれで4人目の遺影が並ぶことになりました。その中のひとりとして、軍服を着た青年の遺影が今も残っています。名前を「岩浅市郎」と言い、祖父の弟になります。ということは私の叔祖父（しゅくそふ）にあたります。祖父は5人兄弟だったそうで、祖父が長男、末っ子が叔祖父の市郎さんだとのこと。その市郎さんは、太平洋戦争末期の昭和20年春に、日米双方24万人を越える犠牲者を出したあの地獄の沖縄戦で命を落としたと幼少の頃に祖父から聞きました。「なんで沖縄で死んだのに、この写真があるん？」と質問した私に、「北九州から送ってきたのがこの写真じゃ。」「『今から沖縄に向かう』という手紙が添えられとったんじゃ。」「きっと自分が死ぬかもしれないと思ってこの写真を送ってきたんとちゃうやろか。」「爆弾を抱いて敵に突っ込んでいったらしい。」と祖父は話してくれました。我が家の墓地にはその市郎さんの墓もありますが、戦死通知とともに届いた遺骨箱には「短い木の棒がコロんと一本入っただけで、しかたなくそれを墓に入れたんやで。」と教えてくれたのは私の祖母の岩浅栄（平成19年他界）。祖母にとっては義理の弟ですが、市郎さんのことについて話す時の祖母はよく目が赤くなったのを私は覚えています。また、私が1歳の頃（昭和45年）に他界した曾祖母（そうそぼ）の岩浅サメ（岩浅市郎の母）は、「市郎はわしに小遣い（※戦没者遺族年金のこと）をくれるええ子や。」と涙を流しながら仏壇に手を合わせていたと祖母からよく聞きました。このように、23歳という若さで非業の最期を遂げた市郎さんについては、幼少の頃からよく話を聞く機会があったのです。



さて、私がかつて八鹿中学校に勤務していた頃、同僚とともに沖縄旅行に出かけたことがあります。その際、沖縄県糸満市にある平和祈念公園を訪れたのですが、美しく整備された公園内でひととき目を引いたのは、おびただしい数の黒い石碑、石碑、石碑…。これはいったい何だろうと思いながら公園内を歩いている時、私の目に飛び込んできたのは、なんと、「岩浅（戸籍：浅）市郎」の4文字でした。その後知ったことですが、これは、「平和の礎（いしじ）」と名づけられた石碑群で、沖縄戦で亡くなった全ての人々の名前を国籍、出身地、軍人、民間人を問わずに刻み込んだものだったのです（敵であったアメリカ軍人の名前も刻まれているし、兵庫県からは3203人の名前が刻まれている。）。けっしてその名前を探したわけではなく、ただぼんやりと石碑を眺めながら歩いただけだったのですが、なにげなく目をやった先にその名前があったのです。まるで、「俺はここにいる。」と市郎さんの声が聞こえたような感覚になりました。恥ずかしながら、旅行に出るまでは「平和の礎（いしじ）」の存在を知らなかったのも、全ての戦没者の名前を石に刻み込むという、沖縄戦に思いを寄せる人々の魂の強大さに触れ、二度と戦争を起こしてはいけないという気持ちを新たにしたのと同時に、自らの教え子たちには、平和な世の中に感謝し、とことん青春を謳歌してほしいという思いを強くしたところでした。



その沖縄からの帰途、那覇空港を飛び立った飛行機は、平和祈念公園の上空を旋回し、本州へ向けて高度を上げていきました。眼下に広がる「平和の礎（いしじ）」の姿がとても切なく、今もあの景色を忘れることができません。